

上肢訓練に対するリハビリテーションロボットの使用開始時期の違いによる改善効果の検討

児玉 悦志¹⁾ 石森 卓矢¹⁾ 腰塚 洋介¹⁾ 富田 庸介²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション科

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[目的]令和 2 年度診療報酬改定において、患者の上肢機能などの運動量増加を目的に特定のリハビリテーション(リハ)ロボットを用いることを評価した運動量増加機器加算が新設された。当該加算は発症から 2 ヶ月以内を限度として月 1 回のみ算定できるが、リハロボット使用開始時期が発症から 2 ヶ月以内か以降かによる効果の違いは明らかにされていない。今回、運動量増加機器加算の当該機器 ReoGo-J を使用した患者を対象に、使用開始時期の違いによる上肢機能への効果について検討した。

[対象] 令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 7 月 31 日までに回復期リハ病棟へ入院した脳卒中患者のうち、ReoGo-J を使用した患者 76 名を対象とした。

[方法]対象を発症から2ヶ月以内にReoGo-J使用を開始した患者(2ヶ月以内群64名:FIM70.4±21.5点)と2ヶ月以降に使用を開始した患者(2ヶ月以降群12名:FIM54.4±20.1点)の2群に分類した。それぞれの群内におけるFMA-UE(Fugl-Meyer Assessment For Upper-Extremity Function)を入院時と退院時で群内比較した。さらに、2ヶ月以内群と2ヶ月以降群のFMA-UEの変化量を群間比較した。説明と同意に関しては、インフォームドコンセントを省略する代わりに当法人ホームページにて研究情報を公開し対象者が拒否できる機会を保障し、当法人倫理委員会の承認を受けた(受付番号119-01)。

[結果]群内比較の結果、両群とも FMA-UE に有意な改善を認めた($p<0.05$)。一方、群間比較の結果、FMA-UE 変化量に有意差を認めなかった。

[考察]リハロボットは効果的なリハ提供や療法士の訓練を補完する役割を担うことからその有効性が多数報告されており、本研究結果においても ReoGo-J 使用者の上肢機能の改善が認められた。また、患者重症度に差はあるものの、使用開始までの期間が発症から 2 ヶ月以内か以降かで明らかな効果の違いは認められなかった。リハロボットの有用性は発症初期に限定されるものではないことが示唆され、運動量増加機器加算の算定要件が見直されることを期待する。

784/800 字 ※学会の要項に則り半角 1 字を 0.5 字としてカウント